都難言協会報

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

難言教育の更なる前進を目指す節目の一年に

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会
会長　増田　好範（足立区立千寿本町小学校長）

令和四年度は、都難言協創立六十周年の節目の年です。この間、都難言協が大切にしてきた、難聴・言語障害がある児童・生徒やその保護者の方々が「通ってよかった」と実感できる指導の実践や学級運営、また難聴・言語障害教育への理解推進などを引き継ぎながら、日々の教育実践をさらに効果的なものにするための新たなスタートの年になるよう、会員の皆様の難聴・言語障害教育に対する熱意や研修・研究に対する意欲・情熱で、お互いが高め合える協議会の運営となるよう努めてまいります。

先日、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画～共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進～」が公表されましたが、その中では、時代の流れに応ずる内容として、例えば「情報技術の急速な進展に伴う障害の状態等に応じたデジタル活用の推進」など、新たな教育的ニーズへの対応が求められています。あらためて、都難言協の果たす役割が重要になると考えます。

引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策が必要な状況ではありますが、この二年間の実績を基に研究会や研修のもち方を工夫して、更なる前進の一年となるよう、会員相互のご協力をお願いします。

東京都教育委員会はじめ関係の皆様には、本年度も引き続き、都難言協の研究活動にご支援いただけるようお願い申し上げます。

◆主な内容◆

一面　会長あいさつ　新設学級の紹介
二面　60周年記念行事のお知らせ
三面　講演会「聴覚障害の言語、思考、感性の発達」
四面　第1回専門研究会　卒業生保護者の声
　　専門委員会より　研究会案内　他

✿　新設学級紹介　✿

練馬区立関町北小学校

念願であった練馬区の西部地区に、区内5校目のことばの教室が新設されました。昨年度まで4年間、お隣の関町小学校で暫定的に開設されていましたが、この度、関町北小学校の校舎改修に合わせて、正式に開設されました。

練馬区の歴代の難言の先生方が尽力され、準備を進めてこられた思いのこもった教室です。子供たち、保護者の方々の思いに寄り添い、課題の改善・軽減を目指して、新しい教室で、新しい決意で、担任一同、より一層日々の指導に励んでいきます。

練馬区立関町北小学校　ことばの教室
久保　淳太郎

60周年記念行事のお知らせ

来る10月25日（火）に都難言協の60周年記念行事が開催されます。

50周年以降、障害者差別解消法の施行、特別支援教室の開始など私たちを取り巻く環境も大きく変わりつつあります。

今、60周年を迎え、これまでの都難言協の活動を振り返り、改めて、「通級指導」の良さや必要性を認識しながら、今後の充実へとつなげていければと考えています。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

都難言協60周年記念行事

○令和4年10月25日（火）
　オンライン開催
○記念式典：14：00～14：30（予定）
○記念講演：14：40～15：40（予定）
　元都難言協副会長　池田幸男先生

都難言
ホームページは
こちらから

https://www.tonangen.com/

講演会

聴覚障害の言語、思考、感性の発達

筑波技術大学　教授　長南　浩人　先生

聴覚障害児の発達の特徴

知的な働き

理科の単元「ものの重さをしらべよう」における健聴児と聴覚障害児の解答の差には、現象に対する認識の違いが見られます。

健聴児は、言葉が「思考の道具」になっているため、実際に見えている現象から離れても、言語的思考が優勢になり複雑な論理的な思考ができます。一方、聴覚障害児は、見えている現象に言葉を添えているため、言葉は「見えている現象を伝える手段」にしかならず、複雑な論理的な思考ができません。「9歳の壁」といわれますが、これは言語が「思考の道具」になっていないことによる躓きのことです。聴覚障害児は言語力が十分でないため、言語を用いた思考（認知）が困難であり、視覚による認知が優位となります。経験しているときに「…すると、どうなる」のように思考させる言葉を投げかけ、思考させたい言葉のパターンを決めて繰り返すことが、言語的記憶、論理的思考に課題がある聴覚障害児の発達傾向に対応した支援となります。

感性の発達

国語の単元「ちいちゃんのかげおくり」における反応から、感性や共感のレベルが、聴覚障害児は健聴児より十分でないことが分かります。共感には情動的共感と認知的共感がありますが、認知的共感には、聴覚障害児の感情と言語の発達に関係があることが報告されています。

1　感情語の取得

心の発達に課題が見られるのは感情語の習得が不足しているからと言われています。研究によると「うれしい」「こわい」の獲得には健聴児と聴覚障害児で差はありませんが、「なつかしい」「ほこらしい」の獲得には顕著な差が見られます。語彙力の弱さは言語環境の違いによります。聴覚障害児の場合、周りの大人が簡単な言葉で伝えようとするため豊かな言葉の獲得ができないと考えられます。聴覚障害児に対して、生活場面で言語事項の偏りがおきないように入力した上で思考の経験を保障することが必要となります。また、語彙学習には偶発的学習も重要となります。

2　他者の状況理解

感情語の獲得をするだけで心が育つわけではありません。複雑な心情は複雑な状況の理解の上に成り立っています。他者の状況理解が共感の前提であり、「心の理論」の発達と共感性の程度には相関があると報告されています。また、聴覚障害児の「心の理論」の発達には、言語力である構文力や語彙力の関与が示されています。そのため、他者と状況と感情をつなげるやり取りを意識的に行うことが必要です。

3　価値観、文化の獲得

国語の単元「スイミー」において集団効力感の価値観を読み取るには、力を合わせることは素晴らしいという価値を経験することが必要です。生活場面で得た価値観が読みにおける心情推論の材料となり、作品観に浸ることを可能にします。物語の理解は単語力や文法力が備われば達成できるものではなく、価値観が育っていなければ作品に浸ることはできません。そのため価値観や文化を伝えるコミュニケーションが重要となり、日頃から大人が「感性モデル」になるように意識して関わることが大切です。

4　作品観に浸るための読みの指導

物語文を教師が読むときは、言葉に豊かな表情を付けて読むこと、教師が自身の感性を話すこと、登場人物の人物像を明確にすること、感性を伴わせながら全文を読み通すことが大切です。

聴覚障害により音が聞こえにくくなるため、言葉が入りにくくなります。思考の道具である言語の入力が妨げられるため論理的思考が苦手になります。認知的共感には、論理的な思考が必要です。聴覚障害児の「9歳の壁」を認識した上で、様々な手段によって豊かな言葉を獲得できるようにし、可能性を伸ばす支援が大切となります。

文責　鈴木由紀子

第1回専門研究会

LDの背景が仮定される子どもに対しての支援

～「学習支援の地図」と「支援教材バンク」～

明星大学　教授　小貫　悟　先生

読み書きや言語発達に対する支援は、指導者が目的を見失いがちです。そこで「学習支援の地図」を基に、支援や指導の階層を意識しながら指導にあたることが大切です。

読み書きにつまずく子どもは、それ以前の語彙や運動といった見えないところに課題があることが多いです。つまずきがどこにあるのか見当を付け、どんな支援が必要か把握する必要があります。読み書きの支援は、文字の読み書き、語の読み書き、文の読み書き、文章の読み書きと階層が上がります。それぞれの階層で指導を行いますが、最終的なゴールは読みであればメールや手紙、説明書を読むといった「読解」が可能になること、書きであればメモをとったり書類に記入したりといった「作文」ができることにあります。言い換えれば、人生を充実させるための力を付けることが目的です。だからこそ指導の場面では、常に上の階層を意識することが大切です。

指導の過程で、間違いに気付かせることも有効な手立てです。教員がわざと間違いを演じ、それを指摘させるということもあるでしょう。大切なのは間違いに気付き、直せるようにすることです。私たちは書いた文章を読み返す習慣がありますが、子どもたちにはありません。そのため、読み返す習慣を身に付けさせる指導方法を確立していく必要があります。

書字では筆順を指導しますが、筆順が入りにくいタイプの子どももいます。私たちは筆順を追って文字を習得する過程で、文字の形を捉えているのではなく、体に染み込ませて体感記憶として覚えています。文字を覚える上で、筆順は最大の武器になります。一方でさまざまなデバイスの発達により、音から文字の形に再生することよりも、変換候補の中から必要な文字を選ぶ再認の場面が増えました。将来、デバイスを活用していくことを視野に入れるのであれば、再認の力を高めることも求められます。書字からワープロソフトの使用などに移行しても困らないような支援を考える必要があります。

こうした経緯が「支援教材バンク」開発のきっかけになりました。子どもが読み書きをする中で多少の間違いがあっても、思いは伝わるものです。特別支援教育では通常学級とは異なり、細かな誤りばかりに気を取られず、そうしたアバウトなところに「なるほど」と共感し、評価することが大切です。

文責　鈴木周平

卒業生保護者の声・難聴

〈卒業生の声〉

ぼくは、6年間きこえの教室に通って音や耳のふしぎについて、補聴器や耳の仕組み、音について学んだことが印象に残っています。また、他の難聴の子とボーリングや人文字など、いろいろなゲームや活動を通して交流活動ができて楽しかったです。中学校ではデフリンピックなどを調べたり学校で行われる林間学校でのハイキングを楽しんだりして人生を楽しみたいです！

〈保護者の声〉

きこえの教室には入学と同時に通い始めました。仕事をしながらの通級は大変で、6年間は通わなくても良いかと親としては考えていたのですが、本人がきこえの教室が好きだったので、卒業するまで継続しました。

個別指導では、自分の言いたいことを信頼している先生に最後までゆっくり聞いてもらえるので、毎回楽しみに通っていました。グループ活動で、きこえに関する情報を提供してもらったり保護者同士で交流の機会が図れたりし、大変感謝しています。

〈卒業生の声〉

毎日日記を書いたことで入試にも対応できる文章構成力がつき、同じ障害の仲間と一緒に過ごすことで自らの障害への自己理解を深めることができた。要約筆記、個別授業など、自分が学びやすい環境で授業に参加できた。

〈保護者の声〉

3年間、お世話になりました。

入学時の学年全体への難聴理解授業、在学中は個別指導や情報保障等をしていただきました。特に入試では特別措置申請や保護者間の情報交換などもあり、安心して通わせることができました。

専門委員会

■研究推進委員会

難言教育に携わる教員の専門知識や指導技術の力の向上を目指して、「専門研究会」「ブロック研究発表会」「課題別研究会」「事例研究会」「基礎研究会」を企画しています。実施方法を工夫し、充実した研修・研究が行えるよう努めます。

■調査・対策委員会

指導をより充実させるために、学級の実態を把握し、その時に生じた課題の解決に向けて活動していきます。

・基本調査の集計、結果の報告
・都・区市教委への「提案書」作成
・都教委との意見交換会
・関係団体との合同研究会記録等

■広報委員会

会員の皆様に役立つ、様々な情報を発信していきます。

・会報（年2回）　・紀要
・継走電話連絡網　・設置校一覧

それぞれについてお気付きのことがありましたら、お知らせください。

また、ホームページに掲載したい事柄の相談も、お受けしています。

大会・学会・研究会などのお知らせ　＊最新の情報はＨＰ等でご確認ください。

・第 51 回全難言協全国大会（北海道）

＊詳細については、後日 HP 等でご確認ください。

・第 56 回全日本聾教育研究大会（愛知大会）

【大会主題】
「聴覚障害教育の専門性の継承とさらなる発展」
―主体的・対話的で深い学びの授業を目指して―
【日程】10 月 6 日（木）・7 日（金）
【オンデマンド配信】
授業研究分科会（幼稚部、小学部、中学部、高等部）
【記念講演】
玉置　崇氏（岐阜聖徳学園大学教授）研究協議分科会（幼稚部、小学部、中学部、高等部、寄宿舎など 11 分科会）
【問い合わせ先】
第 56 回全日本聾教育研究大会（愛知大会）事務局
〒 441-8141　愛知県豊橋市草間町平東 100
TEL：(0532) 45-2049　FAX：(0532) 47-7545
E-mail：zennichiro-aichi@toyohashi-sd.aichi-c.ed.jp

・第 54 回全国情緒障害教育研究協議会（沖縄大会）

【日程】8 月 4 日（木）・5 日（金）
【会場】那覇文化芸術劇場「なはーと」
【問い合わせ先】
沖縄県情緒障害教育研究会　事務局照屋伸吾
ＦＡＸ：098-851-7685
E-mail：okijyouken@yahoo.co.jp

・第 55 回日本言語障害児教育研究大会

【日程】8 月 4 日（木）・5 日（金）
【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター
【問い合わせ先】E-mail：nichigenken@gmail.com

・Ｋ－ＡＢＣアセスメント講習会

日本版ＫＡＢＣ－Ⅱベーシック講習会
【日程】10 月 8 日（土）・9 日（日）
2023 年 3 月 18 日（土）・19 日（日）
【会場】林野会館（東京都文京区）
【問い合わせ先】E-mail：honbu-koushu@k-abc.jp

事務局より

今年度の事務局は、城東ブロックとホームページ運用のために多摩北ブロックと城西ブロックから1名ずつ、新たに多摩西ブロックから2名で担当します。

今年は都難言協60周年の記念となる年です。日々の通級指導の充実につながるようにオンラインでの研究会の開催など昨年度の経験を活かしながら、事務局としても尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

―編集後記―

ご多用の折、原稿をお寄せいただいた皆様に、厚くお礼申し上げます。

本会報を日々の教育活動に役立てていただければ幸いです。

都難言協会報
代表者（会　長）増田　好範
責任者（広報委員長）岩﨑　政弘
発行日　令和四年七月一日
発行数　五八〇〇部
印　刷　有限会社　正陽印刷